

達第四百四十五號

明治三十七年七月達第百十號兵器造修試驗檢査規則中左ノ通改正ス

大正三年十月三日

海軍大臣 八代 六 郎

第四條 艦艇ノ兵裝竣工シタルトキ又ハ在來ノ兵裝ニ増設改造ヲ加ヘタルトキハ海軍工
廠長ハ左記ノ完成圖面成績表類及取扱説明書ヲ作成シ艦艇長ニ交付スヘシ

一、圖面

- 砲 塔
全體及諸機構各部ノ組立圖、機動系統圖、諸電路系統圖、發射
裝管圖、砲管及水壓管敷設圖
- 砲身及砲架
全體及諸機構各部ノ組立圖
- 水壓唧筒機
全體及諸機構部ノ組立圖、發射等必要ナル部ノ解剖圖
- 揚彈藥裝設
組立圖
- 砲火指揮通信電路及傳聲管系統圖、塔外水壓管及排水管並噴氣裝設用空
氣管配置圖

百五十一 海 軍

發 射 機

一般組立及特ニ必要ナル部分ノミノ分解圖
但シ寸法ノ記入ヲ要セス

發射管室水壓管及排水管圖

空氣壓搾唧筒、氣蓄器裝氣柱、配電盤及空氣管裝設圖

一般組立及特ニ必要ナル部分ノミノ分解圖
但シ寸法ノ記入ヲ要セス

魚 形 水 雷

實取取上必要ナル部分ノミノ圖面裝セス
但シ寸法ノ記入ヲ

魚雷發射電路、魚雷發射指揮通信電路並傳聲管系統圖

司令塔内水雷兵器配置圖

發 電 機

全體及各部組立圖
但シ機ノ分解結合等ニ必要ナル程度ニ止ム

無線電信室諸裝置接続圖、無線電信送信機組立圖

各種電路圖

各種電氣裝設ニ關スル電路敷設圖及系統圖

配電盤結線圖

各種配電盤上ノ器具計器等ノ接続ヲ明示スルモノ

電動機電動交流機及電動變壓機結線圖

各種電機機ノ發射管制ニ關スル電路ノ接続
及電力作動ノ關係ヲ明示スルモノ

二、成績表類

1968

砲身砲架領收發射試驗及膽中檢查成績
照準器檢查成績
魚形水雷領收發射試驗成績
方位盤及發射管軸心檢查成績
各種氣壓計試驗成績
各種機構ノ機能表
三、説明書類
諸兵器説明書及特種兵器取扱法

百五十二
海軍

1969

達第百四十六號

海軍省處務規程中左ノ通改正ス

大正三年十月六日

海軍大臣 八代 六 郎

第三十六條ノ二 法律案勅令案豫算案等ニシテ帝國議會トノ交渉事項ニ關スト認ムルモ
ノハ大臣ノ閱覽ニ供シ又ハ決裁ヲ請フ前參政官及副參政官ノ閱覽ニ供スルモノトス
參政官副參政官意見アルトキハ之ヲ大臣ニ開陳スルモノトス

百五十三

海軍

1970

達第四百四十七號

海軍兵曹長同相當官准士官下士官位叙勳具申手續中左ノ通改正ス

大正三年十月九日

海軍大臣 八代 六郎

- 第二條 所轄長ハ毎月一日部下兵曹長同相當官准士官下士官ニシテ其ノ月末日迄ニ叙勳定限年ニ達シ叙勳至當ト認ムル者ヲ調査シ履歴書^{第五式}ヲ添ヘ毎月十日迄ニ在籍鎮守府司令長官ニ具申^{第三式}シ在籍鎮守府司令長官ハ叙勳至當ト認メタルトキハ進念人名簿^{第四式}ヲ添ヘ毎月二十日迄ニ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第三條 刪除
- 第七條 刪除
- 第八條 刪除

附 則

本達ハ大正三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

百五十四

海 軍

1971

大正十一年達
海軍建築工務規則左ノ通定ム
以テ本規則改正

改正

廢止

達第四百四十八號

昭和十八年達 第一一〇號
海軍建築工務規則

大正十三年十月九日

海軍大臣 八代 六郎

海軍建築工務規則

- 第一章 通則
- 第二章 工事ノ計畫
- 第三章 工事ノ施行
- 第四章 官有財産ノ買入貸借交換及管理替
- 第五章 官有財産ノ管理供用及處分
- 第六章 官舎

第一章 通則

百五十五

海軍

第一條 本規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ官有財産管理規則ニ依ルモノ、中船舶及其ノ附屬物ヲ除キタルモノヲ謂フ

第二條 本規則ニ於テ建築工務廳ト稱スルハ海軍省經理局、海軍經理部、臨時海軍建築部及同支部ヲ謂フ

第三條 本規則ニ於テ官有財産管理廳ト稱スルハ海軍省經理局、海軍經理部及臨時海軍建築部支部ヲ謂フ

第四條 工事ヲ分チテ新營工事及修繕工事トス
新營工事トハ新築、増築、改築及移築ヲ謂ヒ修繕工事トハ移轉、模様替、修繕及解毀ヲ謂フ其ノ區別左ノ如シ

- 一、新築 新ニ工作ヲ築造スルモノ
- 二、増築 工作物ノ面積容積又ハ延長ヲ増加スルノ目的ヲ以テ之ニ工作ヲ加フルモノ
- 三、改築 工作物ノ全部又ハ一部ヲ解毀シ主トシテ其ノ材料ヲ使用シ更ニ現在ノ位置ニ工作物ヲ築造スルモノ

四、移 築 工作物ノ位置ヲ變更スルノ目的ヲ以テ之ヲ解毀シ異リタル位置ニ於テ改築ヲ爲スモノ

五、移 轉 工作物ノ大體ノ現形ヲ維持シテ其ノ位置ヲ變更スルモノ

六、模 樣 替 工作物ノ面積容積又ハ延長ヲ増加セシテ其ノ一部ニ變更ヲ加フルモノ

七、修 繕 工作物ノ位置及現形ヲ變セス又ハ些少ノ變更ヲ加アルモノニシテ其ノ一部又ハ全部ノ修繕ヲ爲スモノ

八、解 毀 工作物ノ全部又ハ一部ヲ撤去スルモノ

第五條 工務ニ關スル上申、報告、屆書等ニ添付スル地形圖及位置圖ハ第三十八條ノ規定ニ準據シテ調製シ且ツ適宜ノ方法ニ依リ其ノ目的物ヲ區別表示スヘシ

第二章 工事ノ計畫

第六條 所管長官ハ翌年度ニ要スル工事（一廉千圓未満ノ修繕工事ヲ除ク）ヲ調査シ緩急順序ヲ附シ毎年四月十五日迄ニ海軍大臣ニ上申スヘシ繼續費ニ屬スル翌年度豫定工事

百五十六

海 軍

ノ變更ヲ必要トスルモノ亦同シ

第七條 工事ニ關シ海軍大臣ニ提出スル上申書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一、工事ノ目的及事由

二、工事費概算調書及其ノ年度割

三、設計ノ要領

四、位 置 圖

五、増築改築移築又ハ修繕工事ニ在リテハ在來工作物ノ財産番號、建設年月、經費ノ

支出科目、財産價格及建設後修繕程度ノ概要等主要ナル經歷

六、支障物件ノ處分法

災害復舊工事ニ關シテハ災害程度ノ説明書、復舊工事設計書、前項第五號ノ圖書（以上二通）及前項第四號ノ圖面ヲ提出スヘシ

第八條 新營工事及千圓以上ノ修繕工事ノ施行ハ海軍大臣之ヲ訓令ス

千圓未満ノ修繕工事ハ配付豫算ノ範圍内ニ於テ所管長官之ヲ處理スルコトヲ得但シ左

1973

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ノ場合ニ於テハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

一、新營後十年ヲ經過セサル工作物ノ移轉

二、新營後三年ヲ經過セサル工作物ノ模様替

三、官舎ノ模様替

第九條 前條ノ訓令ニハ左ノ要件ヲ明示スルヲ例トス

一、工事名稱及其ノ内譯

二、豫算ノ科目、金額及年割額

三、構造ノ概要

四、數量(棟數及坪數、延長等)

五、位 置

第十條 五千圓以上ノ工事設計書ハ著手前臨時海軍建築部ノ審査ヲ受クヘシ

五千圓未満ノ工事ニ對シテニ審査ノ必要ヲ認メタルトキハ工事ノ訓令ニ之ヲ指定ス五千圓以上ノ工事ニシテ審査ヲ要セスト認メタルトキ亦同シ

百五十七

海 軍

第十一條 審査ノ爲臨時海軍建築部ニ提出スル工事設計書ハ工事施行方案書、仕様書、仕譯書及其ノ圖面各二通トス

臨時海軍建築部ニ於テ前項工事設計書ノ審査ヲ終了シタルトキハ其ノ一通ヲ海軍省經理局ニ廻付シ他ノ一通ヲ審査要求應ニ還付スヘシ

第三章 工事ノ施行

第十二條 工事ノ施行ハ凡テ請負ニ付スヘシ

建築工務廳長ハ工事ヲ直營シ又ハ他廳ニ依託セムトスルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

一、三百圓未満ノ工事

二、明治二十三年勅令第百九十三號ニ依ルモ請負者ナキトキ

第十三條 前條第二項第二號ニ依リ工事ヲ直營セムトスルトキハ五千圓以上ノモノニ在リテハ直營工事實施方案書ヲ臨時海軍建築部長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 直營工事ハ其ノ一部ヲ時間請負、工費請負又ハ課程請負ニ附スルコトヲ得、

1974

直備人夫ヲ以テ施行スル工事亦同シ

第十五條 工事ノ殘材及古材ヲ他ノ工事ニ使用セムトスルトキハ其ノ價格ヲ當該工事費豫算ノ不用額ト爲ス場合ニ限り海軍通常物品會計規程第三十二條ノ規定ニ依ラサルニ
トヲ得

前項ノ場合ニ於テ建築工務廳長ハ第十八條著手報告ノ例ニ依リ使用材料ノ所屬科目、名稱、數量、價格及用途ヲ海軍省經理局長ニ報告スヘシ

第十六條 請負工事現場員ハ左ノ書類ヲ備ヘ監督整理スヘシ

- 一、工事設計書及契約書寫
- 二、工事工程表
- 三、工事記録
- 四、現場供用物品簿
- 五、持込材料検査簿

第十七條 直營工事現場員ハ左ノ書類ヲ備ヘ監督整理スヘシ

百五十八

海軍

一、前條第一號乃至第四號ニ掲クル書類

二、職工人夫出面簿

三、材料受拂簿

四、工事費整理簿

第十八條 工事ニ著手シタルトキハ建築工務廳長ハ第一號様式ニ依リ海軍省經理局長ニ報告スヘシ但シ千圓未満ノ修繕工事ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 工事竣功シタルトキハ建築工務廳長ハ海軍經理部ニ於テハ建築科長其ノ他ニ於テハ之ニ相當スル官吏ヲシテ検査ヲ施行セシメ會計規則第六十七條第一項ノ竣功調書ヲ作ラシムヘシ契約ニ依リ工事ノ既濟部分ニ對シ代價ノ一部分仕拂ノ爲會計規則第六十七條第二項ノ調書ヲ要スルトキ亦同シ

第二十條 工事竣功シタルトキハ建築工務廳長ハ第五章ノ規定ニ從ヒ官有財産簿ニ登録シタル後供用廳長ニ引渡スヘシ

第二十一條 工事竣功シタルトキハ所管長官ハ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ千圓未満ノ修

1975

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

繕工事ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 工事施行ノ結果海面及其ノ附近ノ陸上主要部ニ變更ヲ生シタルトキハ建築工務廳長ハ水路部長ニ通知スヘシ但シ工事施行期間一箇年以上ニ亘ルモノハ著手ノ際略圖ヲ添ヘ其ノ始終期ヲ概報スルヲ要ス

第四章 官有財産ノ買入、貸借、交換及管理換

第二十三條 第六條乃至第九條第十八條及第二十一條ノ規定ハ官有財産買入ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 建築工務廳長ハ官有財産ノ買入及交換ヲ爲シタルトキハ不動産登記法ニ依リ登記ヲ爲シ且地種目組替ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 民有地ト海軍用地ト交換ヲ要スルトキハ所管長官ハ左ノ事項ヲ具シ海軍大臣ニ上申スヘシ

- 一、所要ノ目的及其ノ事由
- 二、所在地名、地種目、地價及數量

百五十九

海軍

三、地形圖

四、位置圖

五、實測圖

六、交換地ノ所有者住所氏名

七、官有地取扱規則第十四條ニ依ル地方廳土地評價委員ノ評價書但シ兩地共算出ノ基礎ヲ詳記スルヲ要ス

八、地上物件ノ處分其ノ他必要ト認ムル事項

第二十六條 土地水面及工作物ノ借入使用ヲ要スルトキハ所管長官ハ左ノ事項ヲ具シ海軍大臣ニ上申スヘシ

- 一、第二十五條第一號乃至第四號ニ掲クル事項
- 二、工作物ノ借入使用ニ係ルモノハ其ノ構造及經年ノ程度
- 三、所有者住所氏名
- 四、使用料及使用期間

五、其ノ他主要ナル條件

工事施行中其ノ他臨時ノ用途ニシテ一箇年以内ノ使用ニ止リ別ニ豫算ノ配付ヲ要セサルモノ及電信線電話線建設條例ニ依ル敷地ハ前項ノ手續ヲ要セス

第二十七條 官有財産ノ管理換ヲ要スルトキハ所管長官ハ左ノ事項ヲ具シ海軍大臣ニ上申スヘシ

一、第二十五條第一號乃至第四號ニ掲クル事項

二、工作物ノ管理換ニ係ルモノハ其ノ構造及經年ノ程度

三、管理廳トノ協議書寫

四、經費ヲ要スルモノハ其ノ調査

管理換ヲ爲スヘキ海軍用地ニシテ元國有林野ナリシモノハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二十八條 國有水面ノ埋立及使用ヲ要スルトキハ所管長官ハ左ノ事項ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ得テ地方長官ニ協議スヘシ但シ臨時ノ用途ニシテ一箇年以内ノ使用ニ止リ別ニ豫算ノ配付ヲ要セサルモノハ地方長官ト協議ノ上直ニ之ヲ處理シ海軍大臣ニ報告ス

ヘシ

一、第二十五條第一號乃至第三號ニ掲クル事項但シ地形圖ニシテ海面ニ屬スルモノハ

海圖ニ依ルヘシ

二、經費ヲ要スルモノハ其ノ調査

三、漁業權其ノ他水面ニ關スル既定權利ノ處分法

前項ノ埋立面積ハ其ノ護岸石垣等斜面ノ天端ヲ基點トシテ之ヲ計算スヘシ

第二十九條 國有水面埋立工事竣功シタルトキハ建築工務廳長ハ直ニ其ノ旨ヲ當該地方長官ニ通知シ土地編入ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 工作物ノ貸付ヲ願出テタルモノアルトキハ所管長官ハ地形圖、財産位置圖、許可命令書案及願書ノ謄本ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ得テ之ヲ認可スルコトヲ得

土地ノ使用ニシテ三年以内ノ使用期間ヲ以テ左ノ目的ノ爲願出テタルトキ亦前項ニ依ル

一、直接又ハ間接ニ官廳ノ便宜トナルヘキ事業ノ爲ニ使用スルトキ

二、府縣郡市町村及公共組合ニ於テ公用ニ供スル爲ニ使用スルトキ
三、公益事業ノ爲ニ使用スルトキ

前項ニ依リ土地ノ使用ヲ許可シタルトキハ之ヲ地方長官ニ通報スヘシ

第三十一條 官有財産貸付又ハ使用ノ許可命令書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、官有財産ノ所在地名、名稱及數量

二、貸付使用ノ目的

三、假設物ヲ許容スルトキハ其ノ種類及坪數

四、貸付使用料ヲ徵收スルトキハ其ノ金額及徵收ノ方法

五、貸付使用期間

六、貸付使用許可取消ノ條件

七、命令違反ノ場合ニ於ケル處分方法

八、其ノ他必要ノ條件

第三十二條 官有財産貸付又ハ使用ノ許可命令條件ニ基キ其ノ全部又ハ一部ヲ取消シタ

ルトキハ所管長官ハ理由ヲ具シ海軍大臣ニ報告シ同時ニ地方長官ニ通報スヘシ但シ其ノ一部ヲ取消シタル場合ニ於テハ之カ區域ヲ示シタル圖面ヲ添付スルヲ要ス

第五章 官有財産ノ管理供用及處分

第三十三條 官有財産管理廳ハ第二號様式ノ官有財産簿、海軍省經理局ハ同様式ノ官有

財産總括簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一、所在地名及舊地番

二、名稱構造數量及價格

三、財産番號及圖面番號

四、得喪變更年月日及其ノ事由

五、修繕ヲ爲シタルトキハ其ノ概要、金額及年月日

六、其ノ他財産ノ經歷及價值ヲ知ルニ必要ナル事項

第三十四條 官有財産管理廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ官有財産簿ノ登錄ヲ爲スニハ第三號様式ノ登錄傳票ニ依ルヘシ

前項ノ登録傳票ハ二通ヲ調製シ其ノ一通ヲ海軍省經理局ニ送付スヘシ
第三十五條 官有財産ノ名稱ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一、土 地 獨立區域毎ニ一名稱ヲ附ス

二、建 物 一棟毎ニ(官舎ハ戸毎ニ)一名稱ヲ附ス

三、水道、電燈、瓦斯、軌道等ノ幹支線 獨立幹支線毎ニ一名稱ヲ附ス

四、電 信 線 電 話 線 發受信塵間毎ニ一名稱ヲ附ス

五、前記以外ノ工作物 獨立セルモノ毎ニ一名稱ヲ附ス

第三十六條 官有財産ノ價格ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一、買入ノ場合ニ於テハ買入代價

二、新築ノ場合ニ於テハ工事費但シ左ノ費用ハ之ヲ加除スヘシ

イ、工事費ヲ以テ設備シタル物品ノ價格

ロ、當該工事費ヲ以テ購入又ハ設備シタル工事用器具機械及假設物ノ評定價格

三、増築ノ場合ニ於テハ新築ニ準シ算出シタル價格ヲ在來財産價格ニ併合改訂ス



四、改築及移築ノ場合ニ於テハ新築ニ準シ評價ノ上新財産價格トシテ改訂ス

五、移轉、模様替、修繕等ノ場合ニ於テハ財産價格ヲ改訂スルコトナク其ノ費用ヲ別

ニ登録ス

六、水面埋築ノ場合ニ於テハ評定價格

七、交換ノ場合ニ於テハ交換目錄價格

八、土地收用法ニ依リ收用シタル場合ニ於テハ補償金額

九、管理換ノ場合ニ於テハ評定價格

十、寄贈其ノ他價格ノ不明ナルモノハ評定價格

第三十七條 官有財産ニハ一名稱毎ニ番號ヲ附スヘシ但シ從タル財産ノ番號ハ主タル財

産番號ノ支號トス

前項ノ番號ハ工作物(官舎ヲ除ク)ニ在リテハ供用廳別ニ官舎ニ在リテハ各廳ヲ通シテ

各一貫セシムルヲ要ス但シ位置其ノ他ノ關係ニ依リ必要アルトキハ二廳以上ヲ合併シ

又ハ一廳ヲ數區ニ分ツコトヲ得

第三十八條 海軍省經理局及官有財産管理廳ハ左ノ圖面ヲ備ヘ官有財産ノ異動ヲ整理ス

一、官有財産位置圖

- イ、本圖ノ縮尺ハ六百分ノ一トス
 - ロ、本圖ノ輪廓ハ縦三尺(用紙ノ大サハ縦三尺五寸)トス
 - ハ、電燈線、水道管、瓦斯管等ハ幹支線ノミヲ掲記シ引込線ハ掲記セス
 - ニ、電信線、電話線ハ別ニ系統圖ニ依リ本圖ニハ之ヲ掲記セス
 - ホ、本圖ニハ第一號表ノ記號及色彩ヲ以テ工作物ノ構造ヲ區別スヘシ但シ記號無キモノハ適宜之ヲ設ケ圖上ニ其ノ凡例ヲ示スコトヲ要ス
 - ヘ、本圖ニハ財産名稱、番號、建設ノ年號等ヲ掲記スヘシ
- 二、工作物構造圖
- イ、本圖ノ縮尺ハ設計圖ノ例ニ依ル
 - ロ、本圖ニハ財産番號ヲ附記スヘシ

三、海軍用地々形圖

本圖ハ陸地測量部發行ノ地圖ヲ用ヒ(陸地測量部發行ノ地圖ナキトキハ其ノ地方所行ノ地圖)海軍用地ノ位置及境域ヲ記載スルモノトス但シ其ノ縮尺ハ二萬分ノ一ヲ以テ標準トス

四、海軍用地實測圖

- イ、本圖ノ縮尺ハ六百分ノ一トス
 - ロ、本圖ニハ財産名稱番號實測ノ年月及實測面積ヲ掲記スヘシ
- 第三十九條 官有財産管理廳ハ官有財産ノ名稱及番號ヲ適宜ノ方法ヲ以テ見易キ場所ニ表示スヘシ

第四十條 官有財産ヲ各廳ニ供用スルトキハ官有財産管理廳ハ官有財産目錄及位置圖ヲ交付シ供用廳ハ其ノ受領證ヲ發スヘシ

第四十一條 官有財産供用廳ハ官有財産ニ異狀ヲ生シ又ハ生スルノ虞アルトキハ速ニ官有財産管理廳ニ通報スヘシ

第四十二條 所管長官ハ工作物ノ用途變更、所屬替、解毀、棄却、賣却等ヲ要スルトキ

ハ其ノ事由、財産調査及財産位置圖ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ
左ニ掲クル事項ハ所管長官之ヲ處理スルコトヲ得但シ事後前項ニ準シ海軍大臣ニ報告
スヘシ

- 一、新營後十年ヲ經過セル建物ノ用途ヲ變更スルトキ
- 二、廢朽荒敗シテ修繕ノ見込ナク其ノ用ヲ爲ササル工作物ヲ離權スルトキ
- 三、工作物ノ名稱ヲ變更スルトキ

第四十三條 所管長官ハ天災其ノ他ノ事故ニ因リ官有財産ヲ亡失シ又ハ重大ナル毀損ヲ
生シタルトキハ其ノ事實ヲ詳具シ直ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十四條 官有財産管理廳長ハ官有財産管理規則第十六條ノ規定ニ依リ第四號様式ノ
官有財産現在目録ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ海軍省經理局長ニ送付スヘシ

第四十五條 官有財産簿ハ每十年之ヲ更新スヘシ

第六章 官 舍

第四十六條 官舍貸渡内規第一條ニ依リ貸付スル官舍ヲ指定官舍ト謂ヒ同第五條ニ依リ

貸付スル官舍ヲ有料官舍ト謂フ

第四十七條 有料官舍ハ居住者ノ階級ニ從ヒ左ノ如ク區別ス指定官舍ニシテ之ヲ要スル
トキ亦同シ

甲 二等以上ノ高等官、廳長、(二等官)及參謀長

乙 六等以上ノ高等官

丙 七等以下ノ高等官

丁 判任官

第四十八條 所管長官有料官舍ノ使用料ヲ定ムルトキハ左ノ事項ヲ具シ海軍大臣ノ認許
ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

- 一、官舍番號
- 二、官舍一棟ノ坪數戸數並一戸毎ノ坪數
- 三、使用料調査及其ノ計算書
- 四、公私用間席區別圖

第四十九條 有料官舎ノ使用料ハ其ノ財産價格ヨリ公用間席ト爲スヘキモノノ價格ヲ控除シ之ヲ元金トシテ其ノ百分ノ八ノ十二分ノ一ヲ以テ一箇月分ニ計算ス
第五十條 所管長官ハ有料官舎ヲ各廳ニ配當シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ
第五十一條 第四十七條ノ規定ニ依リ區別シタル官舎ニ餘裕アルトキハ上級者又ハ下級者ヲ之ニ居住セシムルコトヲ得

第五十二條 指定官舎ニ居住者ナキトキハ一時有料官舎トシテ使用スルコトヲ得

第五十三條 所管長官ハ官舎居住者ヨリ其ノ構内ニ自費ヲ以テ工作物ヲ建設セムコトヲ願出テタルトキハ左ニ掲クル事項ニ限り必要ノ條件ヲ附シ之ヲ許可スルコトヲ得但シ事後海軍大臣ニ報告スヘシ

一、十坪未満ノ建物及其ノ他ノ工作物ヲ假設スルトキ

二、瓦斯、電燈、電話、水道ノ類ヲ敷設スルトキ

第五十四條 所管長官ハ官舎貸付内規及居住者心得ヲ定メ海軍大臣ニ報告スヘシ

附 則

百六十五

海 軍

第五十五條 作業會計ニ屬スル建築工務ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第五十六條 第三十三條ノ規定ニ依ル官有財産簿ノ改正ハ漸次之ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 本規則ハ大正三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十八條 明治四十一年^一月^一達第九號海軍工事施行手續同二十四年^三月^三達第四十四號ノ海軍財産取扱手續、同二十二年^四月^四達第百十號海軍所轄官用地取扱概則、同三十四年^三月^三達第一二八三號同四十二年^二月^二達第百六十一號、同四十二年^一月^一達第百五十一號、同第百五十二號、同四十五年^五月^五官房第一五二四號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

海

1982

(第三號様式甲)

(大ナ美濃形)

第 號

大正 年 月 日

何々海軍經理部

土地工作物修繕登録傳票

科建
長築

修繕金額及内譯	修繕工事仕様	修繕ノ個所	修繕年月日	應所 名番 號	稱 附屬物各稱	構 造	量 數	價 格	所在府縣郡 市町村名	取得 年月日

右官有財産簿へ登録ヲ要ス

圖面
大正 年 月

葉附屬
日登録

備考

一、本傳票中構造以下ノ欄ハ適宜記入ヲ省略スルコトヲ得

1988

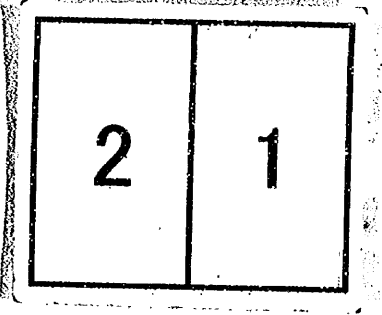
備考

- 一、在來官有財産ノ増減ヲ登録スル場合ニ於テハ官有財産簿ニ登録シアル事項ヲ其ノ原本票ノ相當欄ニ記入シ之ニ括弧シテ増加スルモノハ墨書シ減スルモノハ朱書シ尙變更、訂正ノ場合ハ墨書スヘシ但シ本項ノ増減、變更、訂正ハ其ノ必要欄ノミニ記入ス
- 一、官有財産ノ増減、變更、訂正ニシテ訓令認許等ニ依ルモノハ凡テ其ノ番號及年月日ヲ「増減、變更、訂正ノ理由」欄ニ理由ト共ニ併記スヘシ
- 一、民有地ノ買収、收用、交換、献納等ニ係ルモノハ各一筆ニ對スル所在地、地番、面積、價格、所有者氏名ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ
- 一、「工事實施ノ事由」欄ニハ其ノ財産建造ヲ要セシ理由ヲ略記シ尙訓令ニ依リタルモノハ其ノ番號ヲ附記スヘシ
- 一、「構造及仕様ノ概略」欄ニハ管へハ建物ニ在リテハ梁間、桁行、軒高、天井高及床、小屋組、屋根材料、外壁材料等ノ如ク一目シテ其ノ財産價値ヲ知り得ヘキ程度ニ於テ掲記スヘシ
- 一、「能力」欄ニハ左ノ例ニ從ヒ掲記スヘシ
 - (イ) 船渠ハ有効長、渠口ニ於ケル幅及深(ロ) 船室ハ有効長、幅(ハ) 岸壁ハ干潮以下ノ深
 - (ニ) 電纜池ハ水面積(ホ) 重油タンクハ容量及脚筒ノ能率(ヘ) 水道ハ各池ノ容量、濾池ノ面積、並ニ一日ノ供給能力(ト) 兵舎、病室、監獄等ハ室ノ容積、最大收容人員(チ) 倉庫ハ格納容積、床上耐荷重量、クレーン、ハンキングレール等ノ噸數(リ) 工場ハクレーン、ハンギングレール等ノ噸數

- 一、設計及監督官ハ技師、技手共併記スヘシ
 - 一、「財産價格算出ノ基礎」欄ニハ訓令豫算ト決算額トノ關係ヨリ財産價格算出ニ至ル順序ヲ詳記シ尙該工事實ヲ以テ支辨シタル材料器具機械ノ處分ヲ明記スヘシ但シ其ノ複雑ニ涉ルモノハ明瞭ナラシムル爲適宜ノ表ヲ作成シテ添付スルヲ要ス
 - 一、「設計書及圖面」欄ニハ將來保存ヲ要スル(設計書工事實施方案書、仕様書、仕様書)及圖面ノ番號、冊數等ヲ記入スヘシ
- 但シ經理局長ニ提出スル本票ニシテ事前ニ提出済ノモノハ其ノ旨ヲ附記シテ省略スルニトテ得

1990

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

達第四百十九號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號日本郵船ノ部中三島丸ノ次ニ左ノ
通追加ス

大正三年十月九日

海軍大臣 八代 六郎

J S U 諏訪丸

正 誤

達第四百十八號海軍建築工務規則附表建物名稱ノ下但書中堅ハ堅記號△ノ下ビスケット
ビスケットノ誤

海 軍 省 副 官

百六十六

海 軍

1994

達第百五十號

軍艦進水規則中左ノ浦改正ス

大正三年十月十二日

海軍大臣 八代六郎

第一條中ニ左ノ二項ヲ加フ

海軍大臣ハ前項ノ具申ニ基キ命名式日ヲ定ム

軍艦ノ命名式ハ進水ノ時期ニ舉行セラルルモノトス

第二條中「進水ノ期日」ヲ「命名式ノ期日」ニ、「進水次第書」ヲ「命名式次第書」ニ改ム

第六條及第九條中「軍艦命名書」ヲ「進水命令書」ニ改ム

第七條 進水命令書ハ左ノ例ニ依ル

何種艦何大正 年 月工ヲ起シ今ヤ船體成ルヲ告ケ茲ニ命名ノ式ヲ舉ケ進水セシ

メラル

第八條中「進水ノ式場」ヲ「命名式場」ニ改ム

海軍大臣 巖谷 久 左

百六十七

海軍

1995

達第五百十一號

軍備補充費ヲ以テ製造中ノ戰艦三菱ニ左ノ通命名セラル

大正三年十月十二日

海軍大臣 八代六郎

横須賀海軍工廠ニ於テ製造

第四號戰艦

山城

神戸川崎造船所ニ於テ製造

第五號戰艦

伊勢

長崎三菱造船所ニ於テ製造

第六號戰艦

日向

百六十八

海軍

1996

達第百五十二號

汽船戸島丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

大正三年十月十五日

海軍大臣 八代 六郎

G Q R H 戸 島 丸

達第百五十三號

明治三十年達第百五十七號軍法會議主理主理試補錄事服務ノ件中左ノ通改正ス

大正三年十月十五日

海軍大臣 八代 六郎

本文中「軍法會議ヲ管轄スル長官ノ部下ニ司法部ノ設置ナキ場合ニ於テハ該」ヲ削ル
第三號中「主理」ノ下ニ「及主理試補」ヲ加フ

百六十九

海 軍

1997

達第百五十四號

海軍無線電報取扱規約附表第一遞信省船舶局名略符號中左ノ通改正ス

大正三年十月二十四日

海軍大臣 八代 六郎

日本郵船ノ部中識訪丸ノ次ニ「J A T 熱田丸」ヲ加フ

大阪商船ノ部中臺中丸ノ次ニ「J A C 亞米利加丸」ヲ加フ

百七十

海軍

1998

達第百五十五號

海軍戰利品取扱規程中左ノ通改正ス

大正三年十月二十七日

海軍大臣 八代六郎

第三條中左ノ但書ヲ加フ

但シ圖書類ハ直ニ之ヲ海軍省ニ送付セシムヘシ

達第百五十六號

捕獲品取扱規程中左ノ通改正ス

大正三年十月二十七日

海軍大臣 八代六郎

第三條中左ノ但書ヲ加フ

但シ圖書類ハ直ニ之ヲ海軍省ニ送付セシムヘシ



百七十一

海軍

正 誤

大正三年達第百五十號進水規則改正第七條進水命令書本文ノ次ニ左ノ一行ヲ脱ス

大正 年 月 日 海軍大臣 爵 氏 名

1999

達第百五十七號

艦船造修試験検査規則中左ノ通改正ス

大正三年十月二十九日

海軍大臣 八代 六郎

第六十二條第一項中「二字或ハ三字」ヲ「若干字」ニ「三字ノ目標」ヲ「三字以上ノ目標」ニ
「三字ニテ總七時」ヲ「一字ノ總二時」ニ改ム

百七十二

海軍

2000

達第百五十八號

横須賀鎮守府在籍

軍 艦 高千穂

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

驅 逐 艦 白 妙

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

大正三年十月二十九日 海軍大臣 八代六郎

達第百五十九號

艦艇類別等級別表中「高千穂」及「白妙」ヲ削ル

大正三年十月二十九日 海軍大臣 八代六郎

百七十三

海 軍

2001